

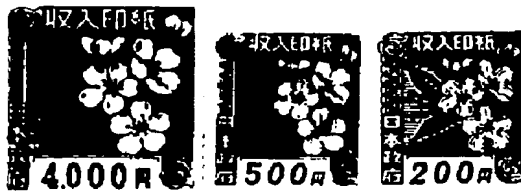
CONCISE EXPLANATION UNDER RULE 98

JP-U-58-1842

This document discloses in FIG. 1 an eye bracket 2 having a plurality of grooves 3 open in its inner circumferential surface thereof. The rubber bushing 5 is secured press fit into the bore of the eye bracket 2, whereby the rubber bushing 5 undergoes elastic recovery and is held in engagement with the grooves 3.

BEST AVAILABLE COPY

公開実用 昭和 58-1842



出願の分割
52-15755/241

適 請

実用新案法第9条第1項において準用する特許法第44条第1項の規定による実用新案登録出願

実用新案登録願

(4.70 附)

昭和56年11月24日

適

特許庁長官 島田 春樹 殿

1. 考案の名称

ショックアブソーバの取付装置

1' 原実用新案登録出願の表示

昭和52年実用新案登録願第157559号

(昭和52年11月24日)

2. 考案者

住所 岐阜県可児郡可児町土田 5700
氏名 サワ 田 隆 英

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル
名称 (092) 萱場工業株式会社
代表者 田 部 健

4. 代理人

住所 〒104 東京都中央区銀座8丁目10番8号
銀座8-10ビル3階
TEL 03-574-8464 (代表)
氏名 (7551) 弁理士 後 藤 政 喜

5. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|-------------|
| (1) 明 細 書 | 1通 特許庁 |
| (2) 図 面 | 1通 56.11.25 |
| (3) 願 書 副 本 | 1通 出願第二回 |
| (4) 委 任 状 | 1通 (通小紙補充) |
| (5) 出願審査請求書 | 1通 |

440

実開58-1842

56 174388

不 登 録

明 細 書

考案の名称

ショックアブソーバの取付装置

実用新案登録請求の範囲

ショックアブソーバの取付けアイブラケットに、軸に撓付け固定したラバーブッシュを挿入してなるショックアブソーバの取付装置において、ラバーブッシュの外周にアイブラケットの軸長さよりも若干長い金属ブッシュを嵌着し、該金属ブッシュの両端を外方に折曲してアイブラケットに係止してなるショックアブソーバの取付装置。

考案の詳細な説明

この考案は、ショックアブソーバの取付装置に関する。

従来、この種の取付装置として、例えば実公昭49-9429号(考案の名称……取付環)が知られている。この取付環は、第1図に示すように、ショックアブソーバ本体1の下部に取付けられたアイブラケット2の内壁に、環状溝3を形成し、このアイブラケット2内に、軸4に撓付けたラバ



ープツシュ 5 を圧縮変形させながら圧入し、前記環状溝 3 内でラバープツシュ 5 を弾性復元させることにより係止させて、ラバープツシュ 5 の抜けを防止していた。

しかしながら、上記のような取付装置は、ラバープツシュ 5 の抜けを防止する手段としては有効であるが、アイブラケット 2 の内壁に複数の環状溝 3 を形成しなければならないため、切削する工程が多くなり、多大な費用と手間を要するという欠点があつた。

また、ラバープツシュ 5 は、アイブラケット 2 の内周径よりも大径にして、圧縮しながら圧入しなければならないため、どうしてもラバーの圧縮応力が大きくなり、従つて軸 4 に作用する曲げ応力が大きくなるという不都合が生じ、更に圧縮した分だけバネ定数が高くなるので微振動の吸収も十分行なえないという欠点がある。

またラバープツシュ 5 の材料も、環状溝 3 内に喰い込ませる量だけ、あらかじめ多く成型しなければならないので、コスト高となる欠点がある。



この考案は、かかる従来の欠点を排除するために案出されたもので、アイブラケットの両端部にラバーブッシュの係止手段を設け、アイブラケット内にラバーブッシュを軽圧入した後、前記ラバーブッシュの係止手段により、ラバーブッシュの抜けを防止するようにしたショックアブソーバの取付装置を提供するものである。

以下、添附図面に基づいてこの考案の実施例を説明する。

第2図において、11はショックアブソーバ本体の下部に取付けられたアイブラケットを示す。そして、軸14に焼付けたラバーブッシュ13の外周に、該ラバーブッシュ13の軸長さよりも若干長く形成した筒状の金属ブッシュ19を接着または焼付けして嵌着し、このように形成したラバーブッシュ13を、アイブラケット11内に軽圧入した後、前記金属ブッシュ19の両端係止部20a, 20bを外方向に折り曲げてアイブラケット11の両端に係合する。これによつてラバーブッシュ13がアイブラケット11内から軸方向



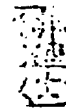
へ抜け出るのを防止できる。

この場合、ラバーブッシュ 13 は従来のように強圧縮して圧入するのとは異り、ラバーブッシュ 13 の取付後に内部応力が大きくなることもない。

この考案は、上記のようにラバーブッシュの外側に金属ブッシュを嵌着してアイブラケットに軽圧入し、アイブラケットの両端部において金属ブッシュを折曲げて係止したため、従来のようにあらかじめ大径に形成したラバーブッシュを圧縮変形させながらアイブラケットに嵌入するのとは異なり、ラバーの内部応力を小さくして軸に作用する曲げ応力を低下させ、またラバーのバネ定数（弾性係数）を増大させずに微振動の吸収も十分に行なえることができる。

また、アイブラケットは精密な内面加工等を行わずに使用できるので、作業工程が著しく短縮し、安価でしかも能率よく製作することができる。

またラバーブッシュは、従来のように大径にする必要がないので、ラバーの使用量も少なくなり、コストダウンを図ることができる。



また、ラバープッシュの固定は、金属プッシュの両端部を折り曲げる（かしめる）だけでよいので、簡単に取付作業を行なうことができる効果がある。

図面の簡単な説明

第 1 図は従来 of 取付装置を示す一部縦断正面図、第 2 図は、この考案の実施例を示す要部の縦断面図である。

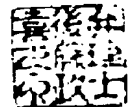
1 1 … アイブラケット、1 3 … ラバープッシュ、1 4 … 軸、1 9 … 金属プッシュ、2 0 a , 2 0 b … 両端係止部。

実用新案登録出願人

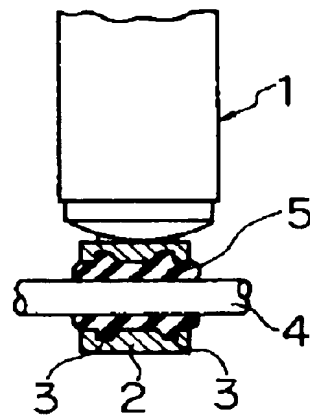
萱場工業株式会社

代理人 弁理士

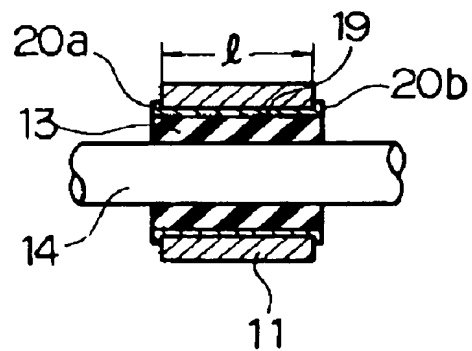
後 藤 政 喜



第 1 図



第 2 図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER: _____**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.